

初めて
賀陽インター降りてみた!!



さんじゅーろーに
会いに行こうやー!
松山城、なじやろう



インディアントマト焼そば



高梁名産のトマトを加えた
カレー風味の焼そば
カレーインド風が由来

備中高梁インディアントマト焼そばの起源は高梁市周辺の給食に登場していたメニューです。カレー味の焼きそばとして、子供たちに大人気でした。カレー＝インド＝インディアンというネーミングも子供向けな感じです。そして、ご当地グルメとしての復活。高梁市の商工会議所を中心に「備中高梁B級グルメ推進会議」を立ち上げ開発に乗り出し、懐かしのインディアン焼そばに特産品であるトマトを加えることで高梁市のご当地グルメとして脚光を浴びることになりました。



心がほっこりする
少年時代を思い出す味

ラーメン評論家・大崎 裕史氏

創業60年の老舗が学校給食をヒントに誕生させたご当地メニュー。「五万石」の「インディアントマト焼そば」は蒸し麺を炒め、カレー味にして目玉焼きをのせ、最後に地元・高梁名産のトマトを使ったソースをかけたもの。店によってはトマトをそのままのせる所もある。少年時代にタイムスリップしそうな懐かしい味わいで子供から大人まで幅広く楽しめるメニュー。トマトの酸味、カレー風味、ソース味、日本人の琴線を刺激する味が交替で押し寄せてくるのが実に楽しい。



おすすめ
Photo
スポット

※写真提供 (一社)高梁市観光協会

備中松山城 国指定重要文化財



「現存12天守」の一つで、天守が現存する「唯一の山城」標高430mの臥牛山小松山山頂にそびえ、岐阜の岩村城、奈良の高取城とともに日本三大山城にも数えられています。雲海に包まれる幻想的な姿を見ることができ「天空の山城」とも形容され親しまれています。

山道あんがい
しんどいよー。



よく来た
にゃん。

今日も皆さんのお越しを
お待ちしておりますにゃん

雲海に浮かぶ天空の山城として注目を集めていましたが...このたび新城主をお迎えしました！
なんと、新城主は「猫」！！



途中で
牛みつけた。
放牧され
とるでー!



JR備中高梁駅に隣接の
複合施設内に「高梁市図書館」



夫婦岩

絶妙なバランス!!



※写真提供 (一社)高梁市観光協会

標高400mの石灰岩の台地上にそびえた、自然が生み出した華麗な夫婦岩。わが国では比肩するものがないほど壮観といわれています。



石の風ぐるま

南の風、北の風を受け、
風をおこしていく
町づくりのシンボルモニュメント



※写真提供 (公社)岡山県観光連盟

「石の風ぐるま」は高知県在住の彫刻家門脇おさむ氏制作によるものです。7基ある風ぐるまの高さは約5.5m、羽根は全部で18個あり、最大のは直径242cm、重さ約2トンになります。すすきの穂がゆれる程度の風で回る石の風ぐるまの回る姿は壮観です。



JAPAN HERITAGE

日本遺産
高梁市

『ジャパンレッド』発祥の地～弁柄と銅の町・備中吹屋～ “ベンガラが語りかける、繁栄の歴史”

※写真提供 (一社)高梁市観光協会

日本遺産
も巡って
みた。

かつて国内屈指の弁柄と銅生産で繁栄した鉾山町・吹屋。標高500mの高原上に忽然と出現する「赤い町並み」は、江戸時代から明治にかけ、吹屋の長者たちが後世に残した文化遺産です。吹屋で生産された赤色顔料の弁柄は全国に流通し、寺社などの建築や九谷焼・伊万里焼や輪島塗など、日本を代表する工芸品を鮮やかに彩り、日本のイメージカラーである「ジャパンレッド」を創出しました。また、周辺に弁柄工場跡や銅山跡も残り、「ジャパンレッド」を創出した往時の繁栄を偲ばせています。

高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区

赤銅色の石州瓦とベンガラ色の外観で統一された見事な町並みが整然と続く吹屋の町並み。江戸末期から明治にかけ、吹屋の長者達(旦那衆)が相談の上で石州(今の島根県)から宮大工の棟梁たちを招いて、町全体が統一されたコンセプトの下に建てられました。



・ベンガラ館

水車を動力源とする弁柄製造工程が概観できる唯一の施設

・吉岡銅山跡

銅山跡地には坑道、選鉱及び製錬所、沈殿槽、大煙突への半地下式煙道等の遺構がみられ、往時の景観の名残をとどめる貴重な産業遺産

・笹敵坑道

吉岡銅山の旧坑道の一つ

・山神社跡(本山 山神社(さんじんじや))

地元の銅山経営者大塚家が勧請した銅山の守護神金山彦命等を祀る。現在御神体は、同所の高草八幡神社へ遷されている

・山神社

吉岡銅山に隣接した北方銅山で祀られていた銅山の守護神

・黄金山城跡

吉岡銅山を支配下に置いた尼子氏が築城した山城跡

・延命寺

吉岡銅山を支配した戦国大名尼子氏ゆかりの寺

・銅栄寺

かつては「観音堂」と呼ばれていたが鉾山長が銅山盛業を祈願したことから「銅栄寺」と称された

・鉾夫長屋跡

銅山に従事した鉾夫の長屋跡

・旧吹屋往来

成羽から吹屋を経由して備後東城に至る旧道

・トロッコ道跡

吉岡銅山と成羽を結び約20kmのトロッコ軌道の跡

・井川発電所跡

三菱が吉岡銅山の設備等の近代化を図る中で、建設された発電所跡

・備中神楽

備中地方一円に伝承されている神楽

・腰折地蔵尊

吹屋千枚地区にある石仏地蔵で足腰の病気を患う人々の信仰の対象となっている

・石州瓦製作道具

塩田村に築かれた窯所に瓦製作道具一式が収集されている

・片山家文書

弁柄の製造・販売を手掛けた旧片山家に残された古文書群

郵便局
見つけたい。

旧吹屋小学校校舎

銅山と弁柄製造が隆盛していた明治33年(1900)に東西校舎、同42年(1909)に本館が竣工しました。各建物の天井裏に造作されたトラス構造等、明治期の擬洋風建築独特の特徴がみられます。「現役最古の木造校舎」として話題となったが、平成24年3月末に閉校となりました。



※写真提供 (一社)高梁市観光協会



※写真提供 (一社)高梁市観光協会

旧片山家住宅

弁柄製造で繁栄した片山家の分家。明治12年(1879)に石見(現在の島根県西部)の宮大工により建てられた商家建築で、昭和51年(1976)から吹屋の歴史と暮らしを紹介する民具等を展示・公開しています。

吹屋郷土館

ベンガラ窯元片山浅次郎家の総支配人片山嘉吉(当時吹屋戸長)が分家され、明治7年ごろより企画し本家の材木倉より良材を選び、石州の宮大工、島田綱吉の手により明治12年3月完成されました。

西江家住宅主屋ほか

本山鉾山を開抗し、ローハ(硫酸鉄)とベンガラの生産を行った豪商・西江氏の邸宅。江戸期には代官御用所を兼ねていた西江邸は、現在でも西江家の個人邸宅として豪奢な姿をとめています。土蔵を改修した展示施設では、弁柄関係の各種資料が公開されています。現在、保存修理工事が進んでおり、令和4年4月21日(木)にオープン。



旧広兼家住宅

江戸時代後期に小泉銅山(現高梁市成羽町小泉)経営と弁柄関連製造で蓄財した、大野呂の庄屋・広兼氏の邸宅。二階建ての大型主屋や土蔵・長屋等は、文化7年(1810)の建築で、楼門を持つ豪壮な石垣は城郭を思わせる屋敷構えとなっている。映画「八つ墓村」のロケがおこなわれ、全国に放映されたことでも有名。

映画のロケ地にもなった豪奢な雰囲気味わって